

[卓球] 関東学生

ダブルスで3組「ベスト8」入り

関東学生卓球選手権が7月4日から7日まで、駒沢屋内球技場、駒沢体育館の2会場で行われ、男子ダブルスで宇都野光彦(経済4・実践学園高)・鈴木敢(法4・浜松商業高)組が、女子ダブルスで杉本枝穂(文3・青森山田高)・堀部紗代(文3・土佐女子高)組、牛茜(経済3・本庄第一高)・高瑜瑠(商1・秀光中等教育学校)組がそれぞれベスト8入りした。

1回戦から3回戦まで3—0のストレート勝ちと、順調にコマを進めた宇都野・鈴木組。準々決勝では第1セットを取ったものの力及ばず、敗れた。宇都野は「鈴木とは初めて組みましたが、良いコンビネーションを発揮できたと思う。部員たちの応援も心強く、みんなのおかげで頑張れました」と振り返った。

1回戦シードの牛・高組は4回戦までストレート勝ちで進んだが、準々決勝は僅差(きんさ)で敗れた。同じく1回戦シードの杉本・堀部組も2回戦ストレート勝ちと好発進したが、準々決勝で敗退した。

(田口 能成・経済3)



▲初のコンビで入賞した宇都野(左)・鈴木組

[ラグビー] 春季オープン戦

チームとして成長 秋に向け確かな一歩

2カ月にわたって行われたラグビーの春季オープン戦が終了した。計13校と21試合を戦い、通算13勝7敗1分。主力選手のけがなどもあったが、選手たちの士気は下がることなく、主力以外の2~4年次生の活躍や1年次生の台頭も目立つなど、逆にその危機感がチームをステップアップさせる力に変わった。

今年のチームは、フォワードの力強いモールと、バックスのスピードあふれるラインアタックが特徴。どちらも例年以上だと吉田は言う。またフォワードはフッカーの永下安武(商4・天理高)を筆頭とし



▲オープン戦でチーム最多トライを挙げた鈴木将仁

て、細かいフェイントなど頭脳的なプレーが随所に見られるのも魅力だ。吉田克也主将(経営4・長崎北高)は全日程を終えて、「シーズン途中で出てきた課題の一つひとつ克服しながらやっていけたので、良い春のシーズンになったと思う。チームでやっているディフェンスのシステムを皆が理解し、また、意図的な攻撃が出来てきて、回を重ねるごとに良い試合をするようになっていった。まだ足りない点は夏に強化し、秋に向けてチームを仕上げていきたい」と話した。

2部に降格して5年。低迷期が続いているが、1部を目指して前を見続け、積み重ねてきた先輩たちの思いは伝わっている。8月半ばから菅平で行われる合宿、オープン戦を経て、さらなる成長を遂げた専大ラグビー部が今年の秋、どこまでいくのか。そろそろ「緑の旋風」を巻き起こすときがきた。

(松本 かおり・文2=写真も)

[バスケットボール] 関東大学新人戦

リズムつかめず8位に リーグ戦に向け調整へ

関東大学バスケットボール新人戦が6月11日から17日まで、代々木第二体育館ほかで行われ、専大は8位に終わった。

1回戦シードの専大は2回戦で湘南工科大を149—48の大差で破った。続く国士舘大戦は27得点、10リバウンドでダブルダブルを記録した藤井元気(経済2・水島工高)、22得点を挙げた宮城信吾(経営1・美来工科高)らが活躍、78—60で勝ち進んだ。しかし、準々決勝で日大に完敗、5～8位決定戦へ。ここでも神大、拓大に連敗した。

新関光一総括は「練習時間のほとんどをディフェンスの反復練習に費やしているため、オフェンスの達成度が低く、ミスが多発し、リズムをつかめなかったのが敗因。リーグ戦に向けてしっかりとしたチームを作りたい」と話した。

(荻野 敦子・文3)

[剣道] 全日本学生

東西対抗試合で 在本が優秀選手に

全日本学生剣道選手権が7月7、8日、大阪府立体育館で行われた。専大からは、関東学生選手権を勝ち抜いた在本悠作主将(法4・西大寺高)、植木大地(文2・島原高)が出場したが、ともに初戦で敗退した。

しかし、8日に行われた選抜選手による東西対抗試合では在本主将が活躍。2本勝ちを収め、東軍の勝利に貢献し、優秀選手に選ばれた。剣道部では7年ぶりの受賞に在本は「全日本学生で悔しい思いをしたので、東西対抗は頑張りがかった。優秀選手に選ばれ、うれしいです」と話した。



▲剣道部で7年ぶりに優秀選手に選ばれた
在本

[東洋拳法] 全日本学生キックボクシング

団体3位 逢見が新人賞

全日本学生キックボクシング選手権が6月17日、文京区の後樂園ホールで行われた。専大からは5選手が出場し、3勝2分で団体3位入賞を果たした。

個人ではフレッシュマンファイト(フェザー級)で、2ラウンドKOで勝利した逢見亮太(経営2・府中高)が新人賞を受賞。また、フルラウンドの激戦の末、判定で引き分けとなった女子の部・富田美里(法3・新潟明訓高)対国士舘大・柵木の試合がベストバウト賞に選ばれた。

地域の美化に貢献「小さな親切運動」

体育会各部から50人参加

7月7日、生田キャンパス周辺のゴミを拾い、地域の美化に貢献する「小さな親切運動」が、体育会各部に所属する学生50人が参加して行われた。体育会本部が中心となって正門から向ヶ丘遊園駅までの通学路を二手に分かれて清掃していった。いつも専大生がのびのびと生活できているのは、周辺地域の方々の温かい目があってこそ。普段から感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。



(松本 かおり・文2) ▲通学路のゴミを拾う学生たち

[陸上競技] 全日本大学駅伝関東連盟推薦校選考会

惜しくも出場権獲得ならず

出雲、箱根に向け夏合宿へ

全日本大学駅伝対校選手権の関東学生陸上競技連盟推薦校選考会が6月23日、代々木・織田フィールドで行われた。20校各8人が1万メートルを走り、合計タイム上位5校が11月の全日本大学駅伝の出場権を得る。専大は5位の中央学院大に12秒78差の6位に終わり、出場権獲得はならなかった。

加藤覚監督は「悔しいが、次につなげられるレースは出来た。出雲駅伝、箱根駅伝に向け、夏の合宿で鍛えていく」と語った。

(松本 かおり・文2)

《記録コーナー》

◇ローラースケート部

▽東日本学生ローラーホッケーリーグ戦(5月26日～6月17日、茨城県猿島郡・つくばローラースタジアム)2勝4敗=5位

◇日本拳法部

▽東日本学生個人選手権(6月17日、立教大新座キャンパス)級の部・工藤勇人(商2・藤沢西高)=優勝
※同部では7年ぶり。

《国際大会出場》

◇漕艇部

和田 恭平 (商1・二本松工高) 世界カヌーフラットウォーターレーシングジュニア選手権(7月16日～8月1日＝チェコ・ラシセ)

◇卓球部

田中 優一 (商4・専大附属高)
杉本 枝穂 (文3・青森山田高) ITTFプロツアー・フォルクスワーゲン中国オープン(6月26日～7月1日＝中国・南京市)

※田中は日本学生卓球連盟代表選手団の主務として参加。

◇バスケットボール部

横山 悠衣 (16面参照) ウィリアム・ジョーンズカップ(7月11～17日＝チャイニーズ・タイペイ)

◇フェンシング部

森 美奈子 (経済2・翔陽高) アジアジュニア・カデ選手権(7月2～10日＝カザフスタン・アルマティ)
高橋 南 (文3・聖霊女子短大附属高) 高円宮ワールドカップ2007(5月18～20日＝東京体育館)

◇野球部

土本 恭平 (商4・土岐商高)
山田 晃典 (経済3・金沢高)
馬場 強司 (商3・東邦高) オランダ・ロッテルダム・ワールドポート・トーナメント(8月2～12日＝オランダ・ロッテルダム)

※東都大学選抜チームの一員として出場。

◇レスリング部

上迫 博仁 (経営2・沼津城北高) ジュニア世界選手権(8月21～26日＝中国・北京)

《国際大会出場》

◇スキー部

丸子由里香（経営1・北照高）アルペンサマーキャンプ【女子】（8月4～27日＝ニュージーランド）

※海外合宿のみ掲載